

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年8月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、8月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 「魅力発信！えひめ農業NOW（8月分）」

### 東予地方局 地域農業育成室

#### ■キウイフルーツ「ヘイワード」環状剥皮技術で高精度生産へ

- 地域農業育成室は、販売先から要望が高い、糖度15度以上の「ヘイワード」の生産量を増やす技術として環状剥皮を提案しており、昨年は9月下旬の環状剥皮により糖度が1度上昇したことから、今年は更に剥皮時期等について試験を実施している。
- 老木園が多いことから、環状剥皮は結果母枝単位で1cm幅とし、8月剥皮、9月剥皮、無処理の3区を設け増糖効果を比較することとした。今回、8月剥皮区として8月18日に環状剥皮を行い、9月剥皮区は1か月後に行う予定。
- 現在、果実肥大と癒合の様子を調査しており、11月に収穫し果実品質（糖度）を調査する。



結果母枝を1cm幅で剥皮

#### ■三階建てネットワーク法人設立に向け、各法人で話し合い

- 西条市周桑地域の石根地区集落営農組織3法人は、三階建て方式によるネットワーク法人設立に向け、新組織ビジョンづくりを進めており、その大枠が具体化した。
- 新組織ビジョンは、3法人組織代表、愛媛大学、JA周桑、地域農業育成室が、毎月定例組織間連携会議を開催し、現状の問題点を明確に洗い出し検討を重ねてきたもの。
- 当室は、その具体化案を調整するため3法人ごとに出向き、組合員の意見を取りまとめた。各法人における現在の農地所有者やオペレーターの10年後の年齢構成による必要性や体制、新法人の組織図、役割分担など具体的に提示し、数多くの賛成意見や改善点などが示されるなど熱心な協議となった。
- 8月からJA愛媛中央会も指導機関として新たに加わり、毎月の定例組織間連携会議、各法人での話し合い、関係機関での検討会をさらに進め、ネットワーク法人設立委員会設置に向け慎重に協議を重ねていく。



設立に向けて代表役員らで検討

## ■ 高収益作物次期作支援交付金申請者に農作業安全講習会を開催

○地域農業育成室は8月31日、JA西条あぐりセンターで、西条地区農業再生協議会の協力のもと、農作業安全講習会を開催した。高収益作物次期作支援交付金の申請者106人が出席。

○この交付金事業は、新型コロナウイルス感染症の発生により売上が減少する等の影響を受けた野菜・花き等の「高収益作物」を次期作で作付けする農業者に対し支援を行うもので、支援を受ける条件の一つである労働安全確認事項の実施の一環として実施。

○講習会では、当室が、トラクター等の安全使用について講演し、農業再生協議会担当者が申請上の注意点等について説明を行った。

○当室では、新型コロナウイルス感染症の発生による加工用野菜や給食用野菜の需要減等で収入の減少を余儀なくされた農業者への支援と高収益作物の栽培振興に取り組む。



農作業安全の重要性を再確認

## ■被害が増加するニホンザルへの対策強化

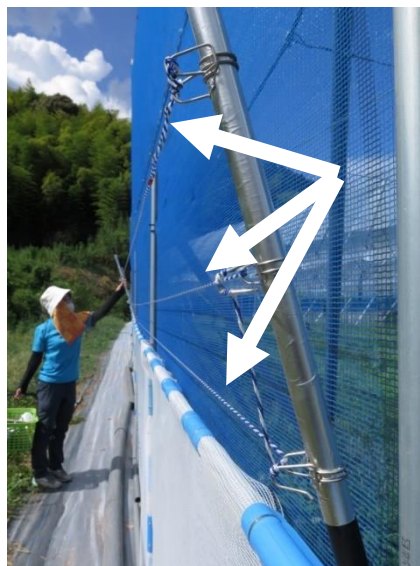
○地域農業育成室は、西条市丹原町で7月下旬よりニホンザルによるぶどう園への被害が散発していることから、鳥獣害管理専門員に認定された普及指導員が、農家へ聞き取りを行い被害概況の把握を行うとともに、園地へセンサーカメラを設置し侵入経路の特定などを行った。

○農家と共に動画を確認するなど現状を把握し、対策について検討した結果、ぶどうの収穫が9月下旬まで続くことから、ニホンザルの習性を考慮した複合柵の設置を指導し、8月28日に設置を完了した。

○併せて、地元猟友会員の協力を得て箱罠とくくり罠による捕獲も進めるなど、守りと攻めの対策を実施しており、今後も継続的に現状把握・対策の効果を検証していく。



園地へ侵入するサルをセンサーカメラで確認



設置した複合柵（矢印が電柵）

## ■さといも疫病が体系モデル防除で大幅に減少

- 四国中央農業指導班は、平成27年に県内で発病が初めて確認されたさといも疫病について、平成28年から四国中央市の関係機関及び団体、出荷業者と連携し、防除対策に取り組んでいる。
- 本年は、「さといも疫病防除対策情報【さといも疫病防除体系モデル】」を周知し、生産者の指導に当たった。
- 8月25日現在、発生面積は25haで、市内のさといも栽培面積170haに対し、14.7%の発生率となっており、昨年の97.8%から大幅に減少した。
- 疫病発生が減少した要因は次のとおり。

①登録拡大農薬の効果が発揮、②予防散布の実施、③生産者の防除意識の高揚、④梅雨明け後の高温多照

※【さといも疫病防除体系モデル】：地域の初発前は新たに適用拡大した薬剤を予防散布し、初発（7月7日）後は、適用拡大した予防・治療のための薬剤散布を行うもの



さといも疫病防除体系モデル圃場

## ■愛あるブランド産品「やまじ丸」を販促グッズでPR

- 四国中央農業指導班はブランド戦略課と連携し、愛あるブランド産品「やまじ丸」の売場用販促グッズ（POP）を制作した。
- 「やまじ丸」は、元々加工業者向けの販売が多かったが、今年度より生食用として地元スーパーや産直市等での販売に力を入れ、販売量の増加を目指したところ、売場担当者から産品の特徴をアピールするPRグッズの要望があったもの。
- 地元産直市の売場担当者からは「やまじ丸」の特徴や食べ方等が分かりやすいと好評価であった。



ジャジャうま市売場

### ■今年の早掘りさといも高評価

- 四国中央農業指導班は8月20日、四国中央市農業振興課やJAうま宮農経済部の職員によるさといもの食味試験を行った。
- 食味をしたさといもは、「伊予美人（愛媛農試V2号）」で全期マルチ栽培方式により、早期定植高収益モデル実証ほ（2月中旬定植）と慣行ほ（2月下旬定植）で栽培されたもので、品質や食味を比較した。水煮とだし汁で調理した結果、高収益モデル実証ほのさといもの方が高評価（良い:63%）であった。
- 参加者は、植付直後の多雨や子芋肥大・孫芋着生期の寡照及び8月の猛暑などの影響により作柄の低下を心配していたが、収穫目前にして作柄・味ともに良いものができることを確認した。



高収益モデル実証ほ



慣行ほ

### ■コロナウイルス感染拡大に係る四国中央市産茶の振興支援

- 四国中央農業指導班は8月28日、農産園芸課と連携して、県庁職員を対象に四国中央市産茶及び茶の関連商品の予約販売を実施した結果、約28万円の売上となった。
- 製茶業者等からは、夏期の茶の需要が低迷する時期の販売協力に感謝の言葉があった。
- 今後は、コロナ禍にあっても四国中央市の茶産業が経営を継続できるよう、関係機関と連携し、お茶のある生活スタイルの推進やお歳暮シーズンに向けた取組を進めるとともに、県や市町、団体等職員への斡旋販売等にも取り組む。



四国中央市産茶商品の引き渡し状況

## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■ 8月以降、絹かわなすの生産が回復

- 西条市特産野菜「絹かわなす」は、7月上旬からの日照不足により落花や果実品質の低下、多雨による肥料養分の流亡等による生育不良が発生し、7月の出荷量は昨年対比約80%と低迷していた。
- このため産地戦略推進室は、JA西条と定期的に行っている生育診断をもとに、生産者に対し草勢に応じた液肥散布や追肥の実施、病害虫防除の徹底等と呼び掛けた。
- その結果、梅雨明け以降の天候回復とあいまって、8月中旬から草勢は回復しており、生産量も回復している。



生産量が回復した絹かわなす

### ■ 天敵昆虫を核とした害虫防除の実証

- 産地戦略推進室は、環境保全型農業の推進の一環として、農薬散布の削減によるいちご生産を目指して、2月から3戸の農家で、天敵昆虫を核としたアザミウマ類の防除体系を検証してきた。
- 天敵放飼後は、アザミウマ類の農薬を散布することなく密度を低く抑えて、果実被害を軽減することができた。一方で、天敵の効果安定しない場面もあり、継続した検証が必要である。
- この結果は、7、8月の各JAの生産部会で報告。この技術を導入することにより、化学農薬削減に関する県認証制度「エコえひめ認証」を、新たに1戸の農家が取得することとなった。



天敵昆虫放飼の様子

## 東予地方局今治支局 地域農業育成室

### ■さといもへのドローン試験防除を実施

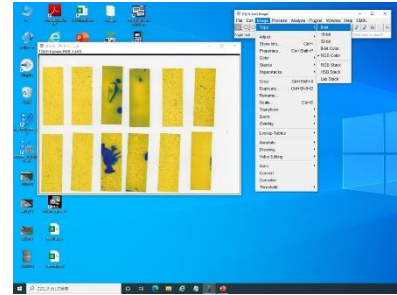
- 地域農業育成室は、JAおちいまばりと連携して、今後のさといものドローン防除導入と高濃度農薬登録を視野に入れた試験防除を農林水産研究所の協力を得て実施した。
  - さといもの栽培面積拡大には、更なる省力化が必要なため、ドローンでの防除作業が期待されている。本試験はドローン（DJI T20）の運航手順や飛行の安定性・安全性、ドローンが発生させる吹きおろし風の影響確認、試験感水紙による散布状況の調査等を行い、今後の防除条件を決定する上での参考とすることが目的。
  - 主な試験結果
    - ・畝に沿った飛行にはナビゲータの指示に加え、目安となる誘導ポール等が必要
    - ・通常高度 2.5m での吹きおろし風は想定よりは弱い
    - ・薬液付着率は、葉裏は葉表に対して 1/10 程度、前後は風向・風速により差異が見られる
  - 今後とも、関係機関と連携して本格的導入に向けた準備を行う。
- ※さといも防除に一番重要な「疫病等防除時期」と「地上部最大生育期」の観点から、試験は 8 月に実施したものの。



ドローン試験防除



試験感水紙の設置



「ImageJ」による解析

### ■今治地域高収益作物次期作支援交付金（運用改善）高集約型経営申請相談会を開催

- 地域農業育成室・産地戦略推進室は、8月12日に今治市・JAおちいまばり・JA今治立花と合同で、農業者の新型コロナウイルスの影響克服を支援する国の高収益作物次期作支援交付金で新たに追加された高集約型経営（80万円/10a 交付）の申請相談会を開催し、花き 13 名、大葉 1 名の生産者が参加した。
- 高集約型経営（花き、大葉等）は、一般的な作物の交付額（5万円/10a）に比べて大幅に高額であるが、交付要件が厳しいことに加え、花き経営は個々によって栽培品目等の経営内容が異なることから、個別に丁寧に聞き取りし、申請に必要な指導を行った。
- なお、必須取組項目「地域で推奨する品目・品種の導入」については、両室が個々の経営品目・品種に沿って推奨に努め、すべての申請者が達成できるよう支援する。



申請相談会

## 東予地方局今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■新人狩猟免許取得者がイノシシを初捕獲

- しまなみ農業指導班では、囲い罠設置予定地に事前にトレールカメラを設置し、イノシシ等有害鳥獣の出没状況を調べ、囲い罠を活用した効果的な捕獲技術の向上を支援している。
- 今治市大三島町肥海地区では、昨年度より「鳥獣害防止新技術等実証展示事業」によりICT活用囲い罠を設置し、集落有志により共同で管理運営しており、この中には昨年、当班の支援により新たに狩猟免許を取得した2名が含まれている。
- 8月15日、新人狩猟免許取得者が、この罠を活用してイノシシ1頭を初捕獲したことから、当班では更に、捕獲技術が向上するよう支援していく。

※ICT活用囲い罠：大型囲い罠と遠隔監視装置を組み合わせることで、リアルタイム動画でわな内部の状況を確認しながら、最適なタイミングで扉を落とすことにより、群れごと害獣を捕獲することが可能。



囲い罠内部の捕獲イノシシ



## 東予地方局今治支局 産地戦略推進室

### ■「醸造用ぶどう」の収穫管理について学ぶ

- 産地戦略推進室は8月25日、醸造用ぶどう栽培を始めて間もない生産者の技術力向上を図るため、令和2年度2回目の栽培技術研修会を開催した。
- 研修会には、生産者をはじめ、醸造用ぶどうに関心のある地元農業者や今治市地域おこし協力隊員等7名が参加。
- 当室からは、今年度実施している防除試験やマルチ被覆試験等の取組を紹介後、(株)大三島みんなのワイナリーの担当者が、まもなく収穫を迎える「シャルドネ」等の収穫管理作業について説明した。
- 果房から病害果粒を取り除く作業を研修した参加者は、その手間から防除の大切さを実感していた。
- 3回目の研修会は、剪定管理について1月頃に行う予定。



実証試験の取組を説明



房の手入れを行う参加者

### ■甘長とうがらし栽培における「日射制御型自動かん水装置」の導入検討

- 産地戦略推進室は甘長とうがらしの高品質安定生産を図るため、JAおちいまばりや県農林水産研究所の関係者と共に、8月20日、久万高原町のピーマン栽培で導入されている「日射制御型自動かん水装置」について、視察研修を行った。
- 今治の甘長とうがらし栽培では、生理障害による減収や、果実の曲がりやひどく規格外品となるものが多く発生するなどの収量低下が課題となっており、かん水不足による水分ストレス増加が要因の1つと考えられている。
- 同かん水装置に係る活用研究や導入については、ピーマンが他の品目に比べ先行して取り組まれており、今回の視察研修における質疑でも、かん水作業の省力化や収量増加を実感しているとの説明があった。
- 参加したJA指導員からは「栽培体系がピーマンと類似している甘長とうがらしにおいても、同様の効果が期待できる」、「高齢者でも扱いやすい」等、同かん水装置の導入に意欲的な意見が聞かれた。



かん水装置に関する意見交換の様子

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■伊予柑のドローン防除、新型機でさらに時間短縮

- 地域農業育成室は8月3日、伊予柑の超省力化技術の確立・普及を目指した地方局予算「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」の一環として、松山市福角の伊予柑実証園でドローンによる3回目の黒点病防除を実施し、防除時間や薬液付着状況を調査した。
- 今回から、新型ドローンを導入し散布幅が4mから7mに拡大したこと、また薬剤最大搭載量が10ℓから16ℓになるなど能力が向上したことから、傾斜地園(10a)区画におけるドローン防除時間は5分15秒で、従来機の6分50秒よりさらに短縮され、手散布(約2時間)の約4%の作業時間であった。
- 9月中に予定している4回目(最終)の防除では、薬液付着状況を画像解析により把握するなどドローン防除の実証効果を検証し、普及を図る。



ドローン機体が大型化し散布幅が拡大



葉と果実への薬剤付着状況

### ■点滴かん水による豪雨災害柑橘園の早期成園化

- 地域農業育成室は7月28日、平成30年7月豪雨で被災した松山市高浜地区の改良復旧柑橘園の早期成園化を図るため、実証ほ(約10a)に点滴かん水設備と防草シートを設置した。
- 設置にあたっては、JAえひめ中央新規就農研修センターの研修生も参加し、就農した場合に自力施工できるよう普及指導員が設置方法を細かく指導した。
- 点滴かん水は、必要に応じて液肥も混用散布できるように整備しており、梅雨明け後の高温、干ばつが続く中でも樹勢は旺盛で、生産者も効果を実感し、他の苗木の定植園地でも導入したいとの声があった。



点滴かん水の効果を農家と確認

## ■さといもの新規栽培者の安定生産に向けて

- 地域農業育成室は8月4日、さといもの産地拡大のため、今年から新規に「伊予美人」の栽培を開始したJAえひめ中央東部営農支援センター管内の生産者等9人を対象に、栽培講習を行った。
- 梅雨明け後、高温、干ばつが続いているため、かん水を十分に行うこと、加えて近年問題となっているサトイモ疫病の発生防止のため、定期防除の徹底を指導した。
- また、当室が設置した親芋副芽を利用したセル苗による大量増殖法の実証ほを巡回し、順調に生育していることを確認した。



普及指導員による技術指導

※親芋副芽を利用したセル苗による大量増殖法：農林水産研究所が開発した技術で、1つの親芋から約40株の苗が増殖できる。

## ■農福連携で新規に農作業の契約が成立

- 地域農業育成室は、東温市のいちご農家の株除去作業について、松山市の障がい者就労施設とマッチングを行った結果、7月28日～8月21日の間で、新規に農作業の契約が成立した。
- これは、当室がJAえひめ中央や全農えひめと連携し、7月15日に両者とマッチングを行い、農作業体験を通して、農家と施設双方が実現の可能性を確認できたことから、契約に至ったもの。
- 生産者からは、「作業が遅れていたため助かった。作業内容には満足しており、来年は6月頃から作業を依頼したい」、「ブルーベリーの収穫作業も依頼したい」との感想があった。
- また、農家と障がい者就労施設との連絡体制やトイレの確保などの課題も明らかになったことから、対応策を整理し農福連携がスムーズに実施できるよう支援する。

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■中山栗モデル園の巡回でモデル園技術の効果を実感！！

- 伊予農業指導班は7月31日、地方局予算「中山栗産地力向上促進事業」の一環で、中山栗のモデル園主と中山町剪定作業請負組織（剪定班）の12人とともに、低樹高剪定モデル園の実証効果を確認した。
- モデル園の低樹高剪定や管理の様子を確認した農家からは「年を追うごとに樹の調子が良くなっている」、「間伐を行った園地でも、一年で樹冠が広がり、減収は少なそうだ」といった声が聞かれた。
- また、昨年度から手掛ける新植早期モデル園地の生育状況も確認し、「定植1年目とは思えないほど新梢の伸びが良い」と驚くとともに、苗木保護のための防草シートの活用等、新植早期成園化技術に興味を示していた。



実証看板を見ながら意見を交わす

### ■（株）プロシーズ、荒廃園地等での栗の請負面積をさらに拡大

- 伊予農業指導班は、栗栽培の担い手の確保や栽培面積の拡大に向け、荒廃園等での栗栽培を推進しているが、令和元年度から60aで栗栽培を開始している（株）プロシーズ（伊予市中山町で森林の保全や農作業の受託、林産物の加工・販売）が、管理者不在の栗園の栽培管理を受託することになった。
- これは、3年後に中山町で管理者不在となる栗園地（3.3ha）の情報が新たに寄せられたため、（株）プロシーズへ情報提供したところ、この園地管理の受託が決まったもの。
- この園地は、傾斜が比較的緩く、南向きで日当たりも良く、かん水設備も整っている等、栗栽培を行う上で好条件な園地であり、同社は、この園地の荒廃防止に意欲を示している。

### ■中予地区青年農業者のリーダーが組織活動について意見交換

○伊予農業指導班は8月20日、砥部町の道の駅ひろた「峡の館」で中予地域の青年農業者組織リーダー等13人による意見交換を開催した。

○これは、中予地区青年農業者リーダー研修として、各地域の青年農業者の交流と、知識の向上を目的に毎年実施しているもので、今年は、新型コロナウイルス感染拡大に対応した組織活動が話し合わせ、県外での販促活動等を県内に切り替えるなど、新しい生活様式を踏まえた活動を展開することとなった。

○また、南予地域等の柑橘の収穫時期における労働力不足が懸念されていることから、中予の青年農業者で支援できないか働きかけたところ、久万高原町の青年農業者から農閑期であることから支援したいとの声があった。



活動について意見交換する会員

### ■広田自然薯栽培農家と伊予農高生が交流

○伊予農業指導班は8月7日、道の駅ひろた「峡の館」で自然薯の現在の生育状況の把握と後半の栽培管理を徹底するため、自然薯組合員8人と伊予農業高校生8人を対象に夏季研修会を開催した。

○当班は、芋の肥大促進や品質向上を目的に設置しているかん水チューブの効果や主要害虫であるダニ、ナガイモコガの防除対策について説明し、出席者の技術向上を図った。

○また、伊予農業高校からは、広田自然薯のウイルスフリー苗の育成に関するプロジェクト活動報告があり、組合員は地域特産物振興の支援に感謝を表していた。



現地ほ場研修



伊予農高生徒との意見交換

### ■七折小梅の生産安定対策に取り組む

○伊予農業指導班は8月4日、砥部町ななおれ梅組合の決算報告会において安定生産に向けた夏季のかん水実証など各種調査や技術実証の取組を報告するとともに、産地の再興を図るため、改植などの具体的な対策の実施について指導した。

○七折小梅は老木園が多いことから改植を推進しており、特に優良な苗木を確保するため、安定着果する系統の母樹を選抜し、その苗木の増殖に取り組むこととしている。

○令和2年産七折小梅の生産量は24.4トンと昨年(24.7トン)に続き2年連続での不作であることが報告された。

○組合は、安定生産の対策が急務であることを全員が認識しており、当班の提案する新たな取組を積極的に実施していくことを申し合わせた。

## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■水稲でドローン防除を実証

- 久万高原農業指導班は7月27日と8月5日、農林水産研究所と連携し、水稲防除作業の省力化に向けて、水田におけるドローン防除の実証を行った。
- これは、栽培農家の高齢化に伴い動力噴霧機による水田防除が困難になっていることから、今年度から久万高原町がスマート農業総合対策事業（国補）を活用し、「ドローンによる水稲防除実証」の一環として、管内4地区（久万、直瀬、二名、大川）において、ドローン防除と慣行防除（ラジコンヘリや動力噴霧機による防除）との比較を行っているもの。
- 今後は、病虫害発生状況や品質を調査し、効果が明確になれば、本格的にドローンによる水稲防除を導入する。



ドローンによる農薬散布



感水紙の設置

### ■今年度の稲刈り開始に向け受託組織を支援

- 久万高原農業指導班は8月17日、直瀬住民センターで開催された直瀬稲作生産組合役員会において、今年度の生育調査結果をもとに稲刈りの開始時期等を指導した。
- 今年度の稲刈りの開始時期は9月4日（昨年9月3日）に決定し、コンバインによる稲刈受託作業（約41ha）を行うオペレーター7人の作業スケジュールを作成した。
- また、町内4か所で実施しているドローンによる水稲防除実証について動画で紹介し、ラジコンヘリ防除で困難な水田でも防除可能なことから、役員らは導入に向け関心を寄せていた。



水稲の刈り取り時期を協議



ドローンの防除の様子を動画で紹介

## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■中予管内でパクチーの夏季出荷始まる！

- 産地戦略推進室は、パクチーの周年出荷体系を進める中で、全国的に生産量が減少する夏季の市場出荷拡大（8～9月）を図るため、高冷地での栽培を推進した結果、砥部町広田と東温市上林で新たに4人が栽培を開始することとなり、8月25日に初収穫を迎えた。
- 今年は、7月の長雨では場の準備ができなかったため、8月上旬からの出荷は叶わなかったが、両地区からのリレー出荷により9月の出荷量は確保できる見込みであり、生産者は、「播種後に雨が降らずかん水が大変だったが、病害虫の発生もなく収穫を迎えられて良かった」、「軽いので高齢者でもできそうだ」と今後のパクチー栽培に期待を寄せている。
- 当室では、今回の生産・出荷実績をとりまとめ、次年度の作付け推進と栽培指導に活用し、中予管内におけるパクチーの周年安定生産の実現を目指す。



新規栽培者に播種方法を指導(7/15)



初出荷に向け収穫調製方法を説明(8/25)

### ■「甘平」の調査園に土壤水分センサーを設置

- 産地戦略推進室は、「甘平」の裂果に大きく関与していると考えられる土壤水分の動態を調査し、安定生産に繋げるため、7月31日から順次、管内の調査園4ヶ所に土壤水分センサーを設置した。
- 土壤水分センサーは、「甘平」の根が主に分布する深さ約30cmに埋設し、リアルタイムで土壤水分を計測するとともに、データロガーに日々のデータを蓄積。園地の土質やかん水管理、裂果の発生程度の異なる箇所にセンサーを設置し、裂果との関係を調査する。
- 今年は、7月に降雨が多かった一方で、梅雨明け後は一転して寡雨傾向となっており、8～9月のかん水管理が裂果の発生に大きく影響すると考えられることから、当室では、引き続き調査園における果実の肥大・裂果調査と併せ、生産農家にかん水や肥培管理の徹底を指導する。



果実の肥大および裂果の発生調査



土壤水分センサーの設置  
(○の地点にセンサーを埋設)

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■認定新規就農者に対し農作業安全啓発講習会を実施(第2回ニューファーマー講座)

- 地域農業育成室は8月25日、新規就農者を対象に、農作業に係る安全意識の向上を図るため、「第2回ニューファーマー講座 農作業安全啓発講習会」を開催し、11名が参加。
- 本講座は2部構成で、普段の管理作業や農地の潜在的なリスク要因の確認及び分析の重要性について講義を受けた後、農業機械メーカーによる刈払機、動力噴霧器、チェーンソーの適切な操作及び点検方法等を学んだ。
- 参加者からは、「今までの安全管理で不十分な点が認識できたため、改善したい」「エンジンの構造や点検方法等、専門的知識を学習できた」等の声が上がった。
- 当講座は残り3回開催することとしており、当室では引き続き新規就農者の支援策を実施し、確保育成に取り組む。



刈払機の点検方法の講習を受ける受講者

### ■ブラッドオレンジの特長を生かした商品開発に向けて

- 地域農業育成室は8月19日、南予地方局において、第2回ブラッドオレンジ産地振興対策会議（JAえひめ南、宇和島市、地域農業育成室）を開催し、タロッコの長期貯蔵試験等について検討した。
- 当室から、今年度の長期貯蔵試験結果について、暖冬や1月下旬の強風等の影響で長期の貯蔵性が低かったことを報告し、参加者からは「気象のリスク等を考えると実用化の判断は慎重にすべき」との意見もあったが、果実の試食では、「へたが緑色で見た目も新鮮」「酸味が少なく食べやすい」「貯蔵によって果肉の赤味が増しており特長が生かせる」など前向きな評価もあり、引き続き、実用化試験を実施することとなった。
- また、ブラッドオレンジの認知度向上を図る新たな取組として、ハート形の果実成型栽培実証に取り組むこととし、食品加工業者や飲食店等と連携しながら、2～3月の収穫を目指し試験に取り組む。



長期貯蔵果実の試食



## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■加工用桃が（株）源吉兆庵へ出荷終了。生育不良樹は基盤整備実施後、改植へ

- 鬼北農業指導班は8月18日、松野町農林課及び（株）松野町農林公社担当者と（株）源吉兆庵に対して、出荷した加工用桃に関する今年の実績と園地の基盤整備について検討会を開催した。
- 令和2年度は、6名の農家が7月8日から30日まで、9.7tを同社に出荷した。今年は出荷時期が長雨と重なり、着色はやや遅れたが、前年の6.1tから出荷量は増加した。
- 検討会では、加工用品種の「大久保」の生育不良樹について話し合った結果、前年度に当班が行った改植モデル園を参考に、今年の12月定植を目標に改植を行うことになった。
- 当班は、このモデル園よりもさらに排水機能を強化し、自主施工で改植コストを下げる方法を検討し、結果を評価分析のうえ、管内への普及を図る。

※改植モデル園：昨年度当班が高畝と籾殻による土壌改良モデル園を設置し、2年目で、既存樹の樹高を超えるほど生育が良好となっている。



(株)松野町農林公社の加工用桃園（松野町立石）

### ■きゅうり研修用ハウス設置で新規生産者を確保

- 鬼北農業指導班は8月24日、（株）松野町農林公社、松野町とともに、新規就農予定者の研修場所として、県の補助事業（えひめ次世代ファーマーサポート事業）等を活用して、きゅうり栽培用研修ハウス（252㎡）を松野町吉野の同公社内のほ場に整備した。
- この研修ハウスは、過去2億円の販売額があったきゅうり産地再興を目指し、令和2年度から新規に普及ビジョンに取り上げ、産地づくりに取り組む核となるもので、低コスト化や遮光ネットによる高温対策に加え、赤色防虫ネットと光反射シートにより害虫（特にアザミウマ）の侵入を防ぐ資材も設置した。
- 現在、このハウスで研修する候補者を募集中で、当班は、松野町の新規就農者を確保するため、候補者に栽培支援等を行いながら、きゅうり等の野菜栽培農家の増加を目指す。



完成した低コスト・最新式研修ハウス



きゅうりネット張り指導

## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■柑橘若手栽培者が栽培技術レベルアップを

- 愛南農業指導班は8月6日、愛南地区青年農業者協議会柑橘農家18名を対象に、高品質柑橘の安定生産に向けた園地互評会・園地調査を実施した。
- 猛暑の中「自分の園地は自分で掘って調べよう」を基本に、土壌や生育状況を確認しながら、近年問題となっている甘夏柑の「水腐れ症対策」など栽培上の課題や改善点について、会員間で意見交換を行った。
- 当班は、調査した園地毎に改善事項を取りまとめ、参加者に周知するとともに、栽培技術や経営能力の向上を目的とした研修会を定期的に行い、青年農業者の経営安定に繋げる。



園地調査を行う青年農業者

### ■作業環境の改善に向け労働安全講習会を開催

- 愛南農業指導班は7月31日、御荘文化センターにおいて、新型コロナ対策の一環である高収益次期作支援交付金で「作業環境の改善」の取り組みを希望する農業者を対象に「労働安全講習会」を実施し、柑橘や野菜農家103名が参加。
- 当日は、管内で使用の多い農業機械や作業中の事故事例を示しながら「農作業事故の発生要因は現場に存在しており、事故の未然防止や事故が起きても大事に至らないために安全対策を講じることが大切である」と訴え、参加者は農作業事故の恐ろしさや防止対策の必要性を再認識した。
- 当班は、農業者への農作業事故防止に向け、引き続き情報提供や啓発活動に取り組む。



労働安全講習会の様子

### ■就農後のサポートを実施 新規就農者の定着率 100%

- 愛南農業指導班は8月4日～8月26日の延べ6日間、愛南町農林課と連携し、新規就農者等26名を対象に就農サポート活動を行った。
- 対象者の栽培園地を巡回し、経営内容や経営上の課題等の聞き取りを行い、今後の改善点について指導するとともに、経営改善に繋げるための各種支援策について情報提供を行った。
- 巡回した新規就農者の定着率は100%で、改善計画の目標に対し、経営全体では概ね達成していた。
- 当班では、新規就農者の安定した農業経営の確立を図るため、継続して個別指導を行い、目標に達していない品目については重点的なサポートにより経営安定に向け支援する。



園地での助言活動

### ■マーマレードで河内晩柑をPR！マーマレード作り講習会開催

- 産地戦略推進室と愛南農業指導班が運営を支援している愛南生活研究協議会と愛・レディースネットは8月27日、愛南町御荘文化センターにてマーマレード作り講習会を開催し、11名が参加。
- 講師には、毎年イギリスで開催される世界マーマレードアワードで最高金賞を受賞したニノズコンフィチュールの二宮シスターズを招き、審査の基準や河内晩柑を使用したマーマレード作りのポイントを学んだ。
- 当班は、今回の講習会を通して、愛南町の特産品である河内晩柑を使用したマーマレード等の加工品を作るきっかけとし、来年八幡浜で開催されるマーマレードアワード日本大会への参加を促す。



講師の説明に聞き入る会員ら

## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■愛南町の学校給食における河内晩柑メニューの提供に向けて

- 産地戦略推進室は、河内晩柑の加工品としての可能性を広げることなどを目的に、愛南町農業支援センターと連携して学校給食のメニュー開発を進めているところであり、8月26日、愛南町学校給食センターにおいて、料理メニューの協議や果汁・果皮を使ったコッペパンやゼリーの評価等を行った。
- 管理栄養士からは、「レモン果汁を使った既存のピラフ、タンドリーチキン、小松菜サラダ等は河内晩柑果汁に置き換えることができると思う。また、鯛めしに果汁を使うと愛南らしさがでて食育にも有効」といった意見が上がった。
- 一方、パンやゼリーは、製造する業者を確保することに加え、児童、生徒の反応を探ることも必要で、長期的な取組が必要との意見で一致。
- これらを踏まえ、今後は、果汁を使ったメニューを管理栄養士が試作し、関係者が試食したうえで、学校給食のメニューとして提供できるかどうか検討することとしており、当室としても愛南町の学校給食に河内晩柑メニューが提供されるようサポートしていく。



愛南町学校給食関係者とのメニュー協議

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■ 気象ロボット、A I 選果機の現地検討会

- 地域農業育成室は8月6日、八幡浜市真穴地域で、気象ロボットによる園地管理の最適化やA I 選果機の機能向上に関する現地検討会を開催し、生産農家や関係機関・団体の関係者ら35人が出席した。
- 気象ロボットは、西宇和地域で進めている「スマート農業加速化実証プロジェクト」の一環で、マルドリ園地など管内8ほ場に設置しているもので、気温や土壌水分などの情報をスマートフォンやパソコン等でモニタリングを実施。また、A I 選果機は、これまで選別が難しかった浮皮や生傷について、選別機能の向上と庭先選別の省力化を目指して実証中。
- 会では、出席者らがスマート機器を活用したスマート農業一貫体系に向けた課題抽出と実証方法等について、熱心に討議した。



みかんほ場での検討会



A I 選果機の選果

### ■ 第2回新型コロナウイルス農業対策連絡協議会の開催

- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は8月12日、県、市町、JA等で構成する「第2回八幡浜支局新型コロナウイルス農業対策連絡協議会」を開催。
- 今回の協議会では、農業・農業者への影響についての情報を共有した上で、
  - ①経営支援対策：経営継続補助金、高収益作物次期作支援交付金等、緊急に制度化された事業の2次募集に向けて、周知と支援。
  - ②労働力確保対策：県・市のみかんアルバイト確保緊急支援事業の有効活用、県内アルバイト及びお手伝いプロジェクト有償ボランティア確保の推進等、幅広い労働力確保活動を強化。
  - ③販売・消費対策：農産物・加工品販売フェアや南予マルシェ等を開催し、地域内消費喚起と販売支援を実施。に関し、各対策の活動内容や今後の支援方を協議した。
- 両室は引き続き、今後の新型コロナウイルスの感染状況や農業・農業者への影響を注視しながら、関係機関と連携し支援を行う。



コロナ対策等について協議

## ■西宇和農業の魅力や支援体制をPR

- 地域農業育成室は8月29日、マイナビ農業主催のZ o o mによるオンライン就農相談に「西宇和みかん支援隊」（就農支援組織、構成員：JAにしようわ、八幡浜、伊方町、県）の一員として参加し、柑橘生産農家と、西宇和農業の産地紹介及び個別就農相談を行った。
- 就農相談では、産地の紹介やJAによる農業研修の支援体制等の説明のほか、就農意向の聞き取りを行い、具体的な就農方法を提案した。また、八幡浜市真穴地区の柑橘農家・飯田衣美氏が、結婚を機に農業に取り組んでいる状況を説明。「愛媛・八幡浜・農業に関心を持ってもらい、八幡浜市への移住・就農に繋がったらうれしい」と、農業の魅力をアピールした。
- 当室では、新型コロナウイルスの影響により就農相談の形態も変わる中、関係機関と連携しながら、引き続き新規就農者の確保・就農支援に取り組む。



みかん支援隊による個別相談



自宅から見える海を背景に発表

## ■県内初、かんきつの集落営農法人設立

- 伊方町中浦集落は、集落農業の継承と担い手育成等を目的として、農事組合法人「笑柑園ナカウラ」を設立することとなり、8月29日に設立総会を開催した。
- 構成員は8人でスタートし、今年度は、新規就農者の受け入れ対策を急ぐとともに、農地の貸付希望者がいることから、今後、魅力ある経営展開を図るため、幅広く意見交換を行い、経営が軌道に乗るよう検討を進める。
- 本取組は、地域農業育成室が関係機関と連携し、集落営農組織の法人化を推進した結果であり、果樹を主体とした集落営農法人は全国でも珍しく先駆的な事例であることから、設立した法人を維持・発展させるため、今後担い手の確保や各種補助事業の導入等を図り、法人経営の強化を支援していく。



法人設立総会



農事組合法人「笑柑園ナカウラ」

### ■みかん収穫期の有償ボランティア確保を目指して企業訪問

- 地域農業育成室では8月24日から9月上旬に、みかん収穫期における有償ボランティア確保を目的に八西地区の企業訪問を行っている。
- 今年は新型コロナウイルスの影響で収穫アルバイトの確保が難しいことから、西宇和みかん支援隊の活動としてお手伝いプロジェクトと連携し、地元の労働力確保をより一層強化しようとしているもので、8月末現在で四国電力(株)八幡浜営業所、(株)あわしま堂等10企業を訪問した。
- 訪問した企業からは、「地域貢献の一環として協力させていただく」「みかんは地域の重要な産業なので、困っているときは助け合っていく」等の心強い声をいただくとともに、理解を得られ、ボランティアの登録をいただいた。
- 今後も企業訪問を継続し、みかん収穫期の労働力確保を目指す。

### ■CATVを活用した柑橘栽培講座の番組制作

- 地域農業育成室は、就農3年目までの新規就農者を対象としたかんきつ栽培講習会「シトラス講座」を、今年度は新型コロナウイルスの影響により、メディアを活用して発信している。
- 第3回は、「仕上げ摘果による高品質栽培」のテーマで、仕上げ摘果の目的や実践手法(摘果の順番、除去果実の目安サイズ)など、作業のポイントを分かりやすく説明した。
- 仕上げ摘果は、品質のバラツキを小さくするための摘果であり、収穫時の果実の外観や品質を大きく左右する重要な作業である。
- 番組は、9月4日から八西CATVで、再放送を含め全21回放送される。また、八西CATVや支局のHP、県庁公式YouTubeで、第1回から順次アップしている。
- 次回は、農作業安全について10月に放送する予定。



時期別除去目安を説明

■酷暑に負けないなす栽培を

- 大洲農業指導班は8月5日、JA愛媛たいきや種苗会社と協力して管内のなす栽培者を対象に講習会を実施。7月の長雨の影響により、樹勢が弱めのほ場が多く見られるため、樹勢回復のための発根促進剤や肥料の適正施肥等の指導を行った。また、カメムシが多く発生している状況であり、害虫防除についても注意喚起を行った。
- また、同JAでは、各品目のベテラン農家を農業アドバイザーに任命しており、この日の会にはなす栽培のプロフェッショナルが参加し、各ほ場での生育状況や対策についてアドバイスを行った。



指導するアドバイザー（中央）

■ぶどうの着色、剥皮で効果大

- 大洲農業指導班は、ピオーネの着色促進に幹への環状剥皮が効果的と確認しており、6月に処理を実施。その後の癒合状況を観察しながら着色状況を調査している。
- 8月13日に調査したところ、主幹への処理では明らかに着色が進んでおり、処理箇所の癒合も問題なかった（写真左）。
- 一方、癒合不良による樹勢低下等の心配がいらぬ緑枝への剥皮についても調査したが、着色促進への劇的な効果は見られなかった（写真右）。当年発生枝では葉数が少ないことなどが要因と見られ、剥皮処理は木質化した部位（主幹、幹、主枝）に施すのが適当と考えられた。
- 今年度管内では、複数農家が試験的に剥皮処理を行っており、当班では今年度の実証結果を基に、さらなる処理技術の普及を図り、高品質化生産に努める。



主幹剥皮処理樹



無処理樹



緑枝剥皮処理枝



### ■冬至かぼちゃの産地化をめざして

- 大洲農業指導班は8月25、26日、JA愛媛たいきと合同で冬至かぼちゃ栽培者を対象に講習会を行った。
- 8月はほとんど降雨がなく、高温が続いたことから定植する際に苦勞するほ場が多く見られた。講習会では高品質なかぼちゃ生産に向け、摘心や玉直しのタイミングなどを丁寧に指導した。
- 大洲市では、国営農地での荒廢農地が増えていることから、当班では耕作放棄防止対策として冬至かぼちゃの栽培を推進しており、作付け拡大や高品質栽培による産地化に向けて引き続き支援していく。



現地での講習

### ■認定農業者へのきめ細やかな農業経営支援

- 大洲農業指導班は8月27日、JA愛媛たいき本所で、大洲市、JAとともに管内認定農業者（10名）に対し、総合的な経営支援を行う相談会を実施。
- 今回は、農業経営改善計画の作成支援に加えて、コロナウイルス感染症拡大に伴う農業者支援策の周知や高温・干ばつ対策についての助言等、個別の農業者に対して重点的な支援を行った。
- 今後も認定農業者に対し、農業経営基盤の強化に向けた総合的なアドバイスをを行い、効率的かつ安定的な農業経営を支援する。



普及指導員がマンツーマンでアドバイス

## 南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■遊子川地区でオーナーらが完熟トマトを収穫

- 西予市城川町の遊子川グリーン・ツーリズム推進委員会は8月23日、トマトオーナー制度の第1回収穫体験を開催し、市内外のオーナー27人が参加。
- 当日は、農園を管理する辻本夫妻の指導を受けながら、自らがオーナーとなる5本の株に実ったトマトを丁寧に収穫した。それぞれ2kg以上収穫することができ、生育状況や活用方法について質問するなど積極的な交流が図られた。
- 6年目となる今年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、マスク着用や受付時の検温実施に加え、3班に分けて時間差で体験することで感染防止対策をとった。
- 西予農業指導班は、当委員会のメンバーとして計画から運営を支援するとともに、トマトの栽培管理指導を行っており、引き続き遊子川トマトの魅力発信に向けて、新型コロナウイルスの状況を考慮しながら9月、10月の収穫体験等の活動を支援していく。



オーナーに収穫指導を行う普及指導員（奥）

### ■青ゆず出荷に向けて

- 西予農業指導班は、ゆずの連年安定生産による産地拡大に向けて、青ゆずの生産を推進しており、出荷を前に8月27日、JAひがしうわとともに、出荷者を対象とした出荷説明会を開催。
- JAから、出荷基準や収穫・出荷の注意点などが説明され、生産者は配布した選別基準シートを基に、選別や出荷基準を再確認した。
- 今年度の青ゆずは、新型コロナウイルス感染症の影響により、加工業者の取引量の減少が懸念されており、出荷者（10名）からは「新たな活用方法や販売先の開拓を検討してほしい」との意見が出された。
- 当班では、これまで青ゆず生産による隔年結果防止を実証しており、更に青ゆずの活用法の講習会や栽培・収穫の労働調査を行い、青ゆず生産のメリット等を提示しながら、取組農家の増加を図る。



出荷目合わせ会



出荷時期を迎えた青ゆず

## 南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■コロナに負けず甘平の台湾輸出を継続！

- 産地戦略推進室は7月31日、甘平の台湾輸出についてブランド戦略課、JAにしよう、取組生産者と今年産輸出用果実の生産販売について協議を行った。
- 台湾への輸出については、新型コロナウイルスの影響が心配されていたが、営業を停止していた現地スーパーの裕毛屋が6月に再開。春節である2月12日に合わせて、県では1月22～24日に現地で「愛媛フェア」を開催することとしており、協議の結果、同時期に約2.5t（R元年産：2.0t）の甘平を輸出することを申し合わせた。
- 今年産の甘平は、梅雨期の長雨・日照不足による影響が心配されたが、現在のところ生育は順調で、着果量も確保。輸出に取り組む生産農家3名は、輸出用に定めた防除指針に準じて管理している。
- 当室は栽培管理指導を徹底し、高品質・安定生産に努めるとともに、輸出3年目を迎えることから、生産者の意向を踏まえながらこれまでの実績を検証し、取組拡大に向けた支援を行う。



輸出園地の生育と管理状況を確認

### ■かきの香港輸出計画について協議

- 産地戦略推進室は8月20日、ブランド戦略課、JA愛媛たいき、大洲農業指導班とかきの香港輸出について協議した。
- JA愛媛たいきでは、平成27年から特産のかきの海外輸出に取り組んでおり、去年は、輸出事業者「グローウェルジャパン」を通じて、香港に刀根早生及び富有4.8tを輸出。JAの販路の一つとして定着しつつある。
- ブランド戦略課とJAから、昨年までの問題点や輸出に関する要望等の報告があり、協議の結果、今年の輸出については、現地で和歌山産と競合する刀根早生の輸出は見送ることとし、富有に絞って取り組むこととした。
- なお、輸出の時期や数量については、今後、JAと輸出事業者が直接協議を行う。
- 当室と大洲農業指導班は、引き続き富有の冷蔵貯蔵技術の検討や輸出に関する情報提供等を通じて取組を支援し、産地のブランド力向上を目指す。



今年産かきの輸出計画について協議



個装して輸出される富有柿（R元年産）

## ■夏果実（大洲産なし）の庁内販売フェアで産地を応援

- 産地戦略推進室は8月25日、八幡浜支局職員等を対象とした「大洲産なし」の庁内販売フェアを開催。
- この取組は、新型コロナウイルスによる販売への影響が懸念される農業者や産地の支援を目的として、南予地方局と合同で実施しているもので、第1弾「松野産もも」に続く第2弾として実施。9月には「内子産ぶどう」の販売フェアを予定している。
- 当日は、なしの主産地である大洲市の産直市「愛たい菜」の店長が来庁し商品販売。今回は八幡浜支局、南予地方局及び八幡浜市の合計233人の職員が約1,000個のなしを購入し、総額186,800円の販売につながった。
- 当室では8月中旬に管内の農業者等が生産する農産加工品販売フェア（6事業者、27商品）も実施しており、引き続き、新型コロナウイルスによる販売への影響を踏まえながら、農業者等への支援と地域農業の活性化に努める。



大洲産なしの庁内販売フェア



マスコミの取材に応じ、なしをPRする普及指導員

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■普及組織先導型革新的技術導入事業の事業計画の策定について

- 高度普及推進グループは、産地の競争力強化等のため、普及組織が、先進的な経営体等と革新的な技術の導入、確立に取り組む「普及組織先導型革新的技術導入事業」に採択された事業について、各普及拠点、対象事業者等と事業実施計画の策定等について協議を行った。
- 採択された事業のうち、免疫を高めるとされ需要拡大が見込まれているしょうがの栽培と一次加工に取り組む事業では、生産加工において最大のネックとなっている芋の貯蔵技術について、庫内温を誤差2℃以内に均一に保てる専用の貯蔵施設の設計、装備等を協議した。
- 更に、ゆず栽培の省力化に取り組む事業では、導入する果実搬送システムの開発及び導入機器の選定等について協議した。
- 当グループでは、各普及拠点等と連携し、対象事業者に対し革新的な技術をいち早く導入し、確立を支援することにより、産地競争力の強化を図ることとしている。



事業計画等の協議（大洲市）



事業計画等の協議（西予市）

## ■しょうが栽培の課題解決へ！県内生産ほ場の生育を調査

- 高度普及推進グループは、各普及拠点と大洲市の農業法人及び愛南町の生産者らが取り組むしょうがの生産ほ場を調査した。
- 両ほ場ともに、一部で7月の集中豪雨により滞水した影響で根茎腐敗病が発生し、特に長時間滞水した園地では同病の蔓延等を確認したほか、その後の高温干ばつにより多くのほ場で茎元が枯れる高温障害や、草丈や根茎の分けつが抑えられる生育遅延の症状等を確認した。
- 一方、設備整備等による定期的なかん水に加え、過度に土壌の窒素濃度を高めていない一部のほ場では、発病が抑制されるなど例年並みに順調に生育していることを確認した。
- 当グループでは、本年度より「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用し、需要の高まっているしょうがの生産から貯蔵、乾燥、粉砕等の一次加工等の技術確立を進めており、今回の調査結果を基に、引き続き産地の立地条件に合った収益性の高い産地づくりに取り組む。



高温障害を受けた株（大洲市）

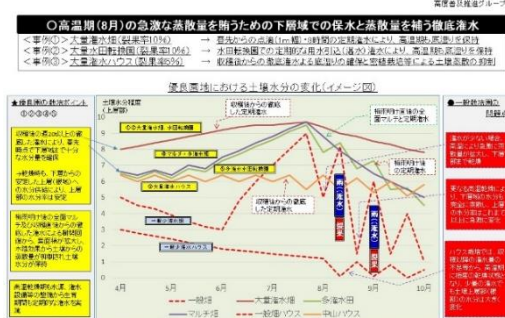


生育状況の調査（愛南町）

## ■「甘平」の裂果要因の解明に向け県下優良園地のかん水（土壌水分）の実態を調査

- 高度普及推進グループは、裂果の発生が問題となっている「甘平」について、裂果のメカニズムを解明するため、裂果率が極端に低い優良園（県下 14 か所）等において、各普及拠点と連携し、地下の保水状況とかん水の実態を確認する現地調査を実施した。
- 今年、梅雨明け以降の高温乾燥により土壌乾燥が進みやすい条件の中、優良園では立地条件等に合わせた様々な対策により、地下の下層に十分な水分が保持されており、急激な水分変化が起きやすく根量の多い表層にまで安定して水分を供給していること等を確認した。
- また、水田転換園では、収穫直後から大量の用水を定期的に園地に流し込んでいるほか、乾燥しやすい畑地ではかん水だけではなく、梅雨明け直後の全面マルチ被覆により土壌水分の蒸発を抑制するなど、優良園ではそれぞれの立地条件や水源の規模に応じた土壌水分の管理が実施されていることを確認した。
- 当グループでは、今回の調査結果を基に上層、下層の水分変化等のモデル化や分類等に取り組んでおり、9月開催の普及指導員果樹調査研究会でその内容について報告、協議する予定で、引き続き優良園での裂果状況やかん水による果実品質、樹勢回復に及ぼす効果等を調査、検討することにより、効果的な「甘平」の裂果対策を推進する。

甘平の優良園地における土壌水分の変化に関する考察



優良園の水分変化（イメージ図）



地下保水状況の確認調査（伊予市）

## ■ (株)源吉兆庵向け加工用もも園において新たなモデル実証ほの設置を検討

- 高度普及推進グループは、(株)源吉兆庵向け加工用ももの生産拡大を推進するために、苗が生育不良となっている園地で、再改植による早期樹冠拡大と安定生産の実現を目指す新たなモデル実証ほの設置に着手した。
- この園地では、7年前の苗木植付け後に生育不良に陥り、一部が枯死するなど、著しい生育阻害がみられたことから、8月26日に詳細を調査した結果、やせた重粘土がほ場の透水を妨げ、根の伸長等を著しく阻害していたことが判明した。
- 当グループでは、これらを基に土壌改良の方法や、低コストで設置可能な土中点滴かん水システムの導入を提案することとし、再改植に向けた作業工程等を鬼北農業指導班等と策定した。
- 当グループは、松野町等とも連携し、年内の再改植に向けほ場の改良工事を指導することとしており、モデル園の設置を通して、同産地における早期成園化技術の確立を図る。



再改植が検討されている生育不良園



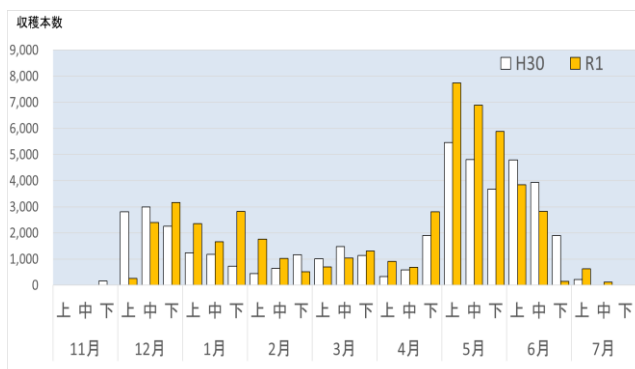
生産者と施工方法等を検討

## ■ 「さくらひめ」の生産性向上について協議

- 高度普及推進グループは、8月5日に花き研究指導室において、普及指導員花き調査研究会を開催し「さくらひめ」の生産対策について協議した。
- 会では、各担当普及職員が県下の主要な生産者の生産実態や経営分析の結果等を、当グループが現地調査の結果及び市場関係者からの評価等を報告した。
- 報告では、定植後からの生育遅延等から2番花採花時期が遅れ需要期の3～4月に出荷できず、予定されている切花本数を収穫できていない生産者が多いことが報告されたほか、県外での生産実証では、脇芽を収穫する栽培方法から需要期に集中した出荷を行っていること等が報告された。
- 当グループでは、9月からの作付けに向け、県下の生産者に苗を供給している新居浜市の育苗者を指導するほか、需要期に出荷できる新たな生産技術の実証に取り組んでおり、生産者の所得向上等を通して「さくらひめ」の安定供給体制の整備を図る。



生産対策に係る協議



さくらひめの月別生産量 (H30, R1)



## ■ 水稻の採種ほにおける事前審査と審査の実施

- 高度普及推進グループは、伊予市、松前町の水稻採種ほ場において、本年度から1期2期の本審査前に事前審査を実施している。
- これは、同採種ほ場では、令和3年度から県オリジナル育成品種「ひめの凜」の採種も始まることから、優良種子の確保を徹底するもので、当グループによる事前審査により、318ほ場（5品種）を3種類のランクに分け、その結果及び指示事項等を生産者に対し事前に通知することにより、本審査までに改善を促すもの。
- また、採種全ほ場を新たにマッピングすることにより、審査の効率化や事後の確認、指導が可能になり、ほ場ごとの病害虫や雑草などの発生状況等の情報もマップ上で、生産者、普及拠点及び関係機関等とも情報を共有することが可能となっている。
- 当グループでは、引き続き効果的な審査体制を整備することにより、高品質の種子の生産、供給に取り組む。



採種圃審査結果の講評



採種圃場のマッピング（ベ-スマップ：ESRI）

## ■ 「ひめの凜」の収量と食味の関係の究明に向け実証ほを設置

- 高度普及推進グループは、「ひめの凜」の高品質生産技術の確立に向けて、8月13日、穂肥と食味との関係を調査するための実証試験を開始した。
- 同試験は、ほ場内を枠で区切り異なる量の穂肥を施用し、穂肥の窒素量がどの程度食味や収量等に影響を及ぼすかを明らかにしていくもので、各普及拠点においても若手職員が中心となり県下各産地における「ひめの凜」の品種特性及び生産実態等を調査している。
- 更に当グループは、西予農業指導班と連携し、昨年度食味の全国コンクールで最高位を受賞した生産者グループの栽培管理技術等についても調査を行っており、これまでに田植え期以降の用水のかけ流し栽培により、湛水管理するほ場に比べ高温期においても根部が高い活性を維持していること等を確認している。
- 当グループでは、これらの活動を通して、品質に影響を及ぼす要因の究明を目指すとともに、その成果を生産者に指導し、「ひめの凜」ブランド産地化を推進する。



施肥試験区の調査（西予市）



食味コンクール受賞ほ場（出穂期）

## 農産園芸課 企画調整グループ

### ■新規採用農業職職員を対象に農業大学校派遣研修を実施

- 企画調整グループは、新規採用農業職職員 11 名に対して、農業大学校派遣研修（前期）を実施した。
- 同研修は、普及職務の理解を深めるとともに、農業職としての実践的な技術や知識を身に着け、普及指導活動等の業務を円滑に推進するために実施したもの。
- 5 日間の研修では、農業振興局長及び農産園芸課長を講師として、本県農業の現状や課題等について理解を深めるとともに、試験場の研究員から各種調査方法等の実習を受けた。また、実際の指導現場での映像を交えながら、先輩職員と普及職員に求められる資質等について意見交換を行った。
- 後期の研修は 11 月に実施し、農業経営管理や病害虫診断等に関する知識を習得する予定。



水稻の生育調査実習



現地映像を交えた先輩職員との意見交換

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543